

頸椎疾患 (けいついしっかん)

はじめに

最近、しつこい首や肩のこりや痛みを訴える方が多くなっています。いわゆる肩コリの場合が多いのですが、中には手に痛みが走るとか、指がしびれるといった症状をともなっている方もみえます。これらの症状は頸椎の病気によって引き起こされます。今月は頸椎疾患について解説します。



疾患の種類

頸は神経や血管、食道、気管の通り道になっているほかに、重い頭を支える支柱の役目を担っています。この支柱は7個の頸椎とそれを支える靭帯や筋肉で構成されています。頸椎はその中に脊柱管という脳から出る脊髄が通る管があり、脊髄を守るといった大切な役目もあります。

以下に頸椎疾患として主なものを3つ挙げます。

1. 変形性頸椎症

椎骨と椎骨の間にある、軟骨である椎間板の老化によって椎間板が潰れて、椎骨の椎間板付着部の椎体から骨が出っ張って棘ができ(骨棘)これが神経を刺激する。(裏面の図を参照)

骨棘が神経を圧迫する＝神経根症(頸椎症性神経根症)

骨棘が脊髄を圧迫する＝脊髄症(頸椎症性脊髄症)

2. 頸椎椎間板ヘルニア

椎間板は軟骨で出来ていますが、その構造は繊維輪という硬い軟骨の囲いの中に、柔らかい髄核という軟骨が入っており、クッションの役目をしています。その髄核が繊維輪を破って飛び出した状態が椎間板ヘルニアです。

変形性頸椎症より若い年齢層(30～50代)に多い。

3. 頸椎後縦靭帯骨化症

椎体の後ろにある後縦靭帯が骨に変わってしまう原因不明の難病です(難病に指定されています)。

後縦靭帯骨化の程度が低くても、転倒などの衝撃で悪化することがあるので、注意が必要です。

無症状の人が転倒して四肢麻痺となり、初めて後縦靭帯骨化症が発見されることもよくあります。

多くの場合脊髄症を呈し、神経根症はまれです。

中高年の男性に多く、また、糖尿病に合併しやすい傾向があります。

頸椎疾患の主な症状

これら3疾患の症状は共通しており、以下のような症状がみられます。

1. 椎間板 椎間関節周囲の神経の刺激によって起こる症状

頸部痛、肩こりや肩の痛み、後頭部痛や肩甲骨部の痛み。

2. 神経根の刺激によって起こる症状(神経根症)

腕や手指のしびれや痛み、腕や手の筋力低下、肩から腕にかけて電気が走るような痛み。

3. 脊髄の圧迫によって起こる症状(脊髄症)

上肢や下肢のしびれ。筋力の低下、歩行障害、排尿・排便障害。

診断

上記の3疾患を鑑別するためには頸椎のMRIを撮影しなければ、単純レントゲン撮影では診断できません。

脊椎のMRI撮影を行うと頸椎のどこが、何によって障害されているかが分ります。

治療

牽引療法、温熱療法

薬物治療

消炎鎮痛薬:ロキソニン®、セレコックス®、ロルカム®など

慢性疼痛改善薬:トラムセット®

神経痛改善薬:リリカ®

筋弛緩薬:ミオナール®、テルネリン®

神経障害改善薬:ビタミンB12(メチコバル®)

手術

改善しない強い痛み、筋力低下、歩行障害、排尿・排便障害により日常生活が障害される場合は手術適応になります。

冬期は冷えにより、圧迫されている神経の血行が障害されるので、症状が強くなります。

症状を少しでも悪化させないようにするため、冷やさないように注意することが必要です。